

Today's Mission

大学入試の問題には、ある種のメッセージが込められていると思う。数学でいえば、①「円周率が 3.05 よりも大きいことを証明せよ」という東京大学の入試問題は有名である。

また、大阪大学が「点と直線の距離公式」を証明させる問題を出題したのもよく知られている。実は、公式を証明する問題は入試でよく見かけられる。積分の分野で出てくる面積公式、対数関数で出てくる底の変換公式、加法定理の証明、などなど。

先の、円周率を扱った問題では、社会の動きを踏まえて、大学側が入試問題を通して、受験生、ひいては社会全体にメッセージを投げかけているように感じる。

公式の証明については「ただ、公式を覚えていたらよいと考えていないかい？」という思いが込められているように感じる。②勉強をするときは、ただ覚えるのではなく、理解することが大切なのだとすることを忘れてはならない。機械的に覚えるのは、勉強とは言えない。また、理解をするというのは、“なぜそうなるのか”ということに加え、“なぜこれが問われているのか”という、出題者の意図を読み取り、自分の解答を通して意思を通じ合わせることなのではなかろうか。



【3-1 担任 過去の HR 訓話より】

答えの投稿は、下記のアドレスまで！休校期間中の課題の質問も受け付け中！

徒然なるままに...

2年ほど前に、ある所で工場見学をしたことがあります。もともと工場見学は好きな方で、「この商品はどうやってできているのだろう？」というのがよく気になってしまふのです。皆さんの中に、共感してくれる人はいるかな？

工場見学をする方法として、予約を必要とするところや、一般公開しているところ、当日見学料金を払って見学をするところ等、様々な方法があるようです。事前に要チェック、というのは言うまでもありません。

さて、実際に工場見学をすると、その圧倒的なスケールと工程に驚かされることが非常に多いです。1つの商品を作るのに、幾重にもわたる工程を経るのです。感動さえ覚えます。そして、我々の目の届かないところでも、多くの人が高品質の商品を作るために日夜努力をされています。実に多くの関わりを通して、世の中へと出ていくわけです。

ただ、商品が出来上がる工程が気になるのはもちろんなのですが、私はもう1つ気になることがありました。

「この機械はどういう仕組みなのだろう…？」「この機械はどこで作られたのだろう…？この機械がないと、生産性にも大きく影響するのでは…？」

スムーズに商品を作るために、たくさんの機械が存在するわけですが、その機械もまた別のところで（自社の場合もあると思います）製造され、工場で活用されているのだと考えると、本当にいろいろなところでつながり合っているんだなあ、と感慨深くなります。

過去の写真を振り返り、そう思い返したのです。今回も、本当に徒然なるままに…ですね。



[35 回生投稿窓口・35 回生質問受付窓口 takatsuka2019@gmail.com](mailto:takatsuka2019@gmail.com)

（件名に、学年、組、番号、名前、用件を必ず書いて送信。：気の向くままに vol.0 参照）
（投稿・質問以外のメールは固くお断りします。休校期間が終了次第、本メールは閉鎖します）

気の向くままに… ～英語で表現コーナー～ vol.13 へ続く

編集 35 回生学年団 3-1 K.M